



【学术交流】

身延山大学

国際日蓮学研究所

〈学术大会報告〉

2018年2月8日号

「2018年 韓・日共同教蔵文献調査及び研究学术大会」報告

身延山大学国際日蓮学研究所は、学术交流提携を締結している高麗大藏經研究所（宗林理事長）と、二月二日（金）に「韓・日共同教蔵文献調査及び研究学术大会」（於大韓民国、曹溪寺内国際会議場）を開催した。これは両研究所が身延山久遠寺身延文庫の文献調査から得られた学術成果公開の一環であり、国際日蓮学研究所からは望月海慧所長と木村中一研究所主任がそれぞれ研究発表を行った。

身延文庫に所蔵される典籍などは、身延山における学僧たちの学問研鑽史の結晶であり、久遠寺が過去より学問研鑽の場であった証である。ここに所蔵される典籍類は国内外のさまざまな研究者の研究対象として現在注目されており、学术大会開催にあたり望月海慧所長は「身延文庫の研究調査が進展し、身延山久遠寺が日本仏教のみならず、世界の仏教研究者の〈智の拠点〉となることを期待する」と述べた。

【発表者及び題目】

望月海慧（国際日蓮学研究所長）

「身延文庫所蔵の論書について」

木村中一（国際日蓮学研究所主任）

「身延文庫沿革史小考」

崔 鍾男（大韓民国 中央僧伽大学教授）

「太賢の『菩薩戒本宗要』流通本
書誌調査及び対照・研究」

金 聖洙（大韓民国 清州大学教授）

「久遠寺文庫及び身延山大学図書館
天台章疏の現況と書誌的分析」

南 權熙（大韓民国 慶北大学教授）

「『法華遊意』研究」

朴 鎔辰（大韓民国 能仁大学院大学教授）

「太賢撰『薬師經古迹記』の流通
と意義」



身延文庫に所蔵される諸宗の経論について発表する望月海慧研究所長



身延文庫の成立などの沿革史について発表する木村中一研究所主任